

レポーター：福岡アジア美術館は、地下鉄中洲川端駅から直結するリバレインセンタービルの7階と8階にあります。1999年に福岡市のアジアとの交流への先進的な取り組みの一つとして開館しました。アジア近現代美術を系統的に収集し展示する、世界で唯一の美術館で、22ヶ国・地域の美術作品、約2700点を所蔵しています。また、アジアのアーティストなどを招いて共同制作や、ワークショップなど市民との交流の場を作り出しています。

レポーター：学芸員の山木さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：とてもきれいな女性の絵ですよね。この絵はどういった絵なんですか。

学芸員：こちらの作品はチャイナトレードペインティングと呼ばれている作品の一つなんですけれども、中国で19世紀に制作された絵画です。

レポーター：チャイナトレードペインティングってどういったものなんですか。

学芸員：当時ですね、中国ではたくさんの西洋の人がやってきてたんですけれども、その人たちに向けた、いわゆるお土産用の絵画、西洋人に向けた、向けて作られた絵画です。

レポーター：へえーお土産ものだったんですね。何かそのお土産ものとしての特徴ってのはあるんですか。

学芸員：そうですね。今でも、観光に行くと絵葉書とか買われるかと思うんですけれども、当時の西洋の人たちも中国に来て、何か中国の珍しいものを持って帰りたいと思ったと思うんですね。なのでこういうきれいな女性ですとか中国の風景などを、作品として作って、買って持って帰っていました。はい。

レポーター：普段中国で描かれている絵と、チャイナトレードペインティングで作られている絵って何か違いがあるんですか。

学芸員：こちらのチャイナトレードペインティングの方が、現実というよりは、よりこうエキゾチックに、なんていうんですか、西洋人がほしいと思うように描かれてあります。

レポーター：ふうーん。その当時の女性というのは、やっぱり頭にお花をつけていたり、衣装とかはその当時のもの？

学芸員：そうですね、当時のものを参考にしていると思いますけれども、非常にこう爪が長かったり髪に飾りをつけたり、きれいな女性を演出して制作しています。

レポーター：確かに爪がとても長いのは印象的ですよね。

学芸員：ですね。

レポーター：お顔立ちはとても上品なのに爪がひゅって長いのがちょっと意外だったんですけど、今でいったらジェルネイルとかそういった感じなんでしょうね。

学芸員：そうですね。おんなじですね感覚が。

レポーター：遠くで見るのと近くで見るのと、近くで見たらお洋服の模様まで陰で描いて

あたりだとか印象がまったく変わりますね。

学芸員：そうですね。これは油彩画で描かれているんですけども、西洋から伝わった油彩画を一生懸命練習して細かく描いて仕上げています。

学芸員：技術がいる絵だったんですね。